【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】平成23年6月2日(2011.6.2)

【公開番号】特開2009-266622(P2009-266622A)
【公開日】平成21年11月12日(2009.11.12)
【年通号数】公開・登録公報2009-045
【出願番号】特願2008-114870(P2008-114870)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｊ　35/06　　(2006.01)
Ｈ０１Ｊ　35/16　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｊ　35/06　　Ｅ
Ｈ０１Ｊ　35/16

【手続補正書】
【提出日】平成23年4月15日(2011.4.15)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
熱電子を放出する陰極と、該陰極に対向して配置され、その対向面上に前記熱電子を受けてＸ線を放射する焦点を形成するターゲット部を含む陽極と、前記陰極および陽極とを真空気密に封入する外囲器とを具備するＸ線管と、このＸ線管を絶縁油とともにＸ線管容器に収納して前記外囲器と陽極とを接地し、前記陰極にマイナスの高電圧を印加してＸ線を発生する陽極接地型Ｘ線管装置であって、
前記陰極を前記外囲器から絶縁する絶縁体と前記外囲器の内面をほぼ平行に対向させ、真空と外囲器の内面と前記絶縁体とが接合されるトリプルジャンクション近傍の対向間隔を他の部分よりも狭くすることを特徴とする陽極接地型Ｘ線管装置。
【請求項２】
前記トリプルジャンクション近傍の前記対向間隔を他の部分よりも狭くする手段は、前記絶縁体に設けた階段状の段差による手段であることを特徴とする請求項１に記載の陽極接地型Ｘ線管装置。
【請求項３】
さらに、前記絶縁体とほぼ平行に対向する部分の前記外囲器の内径を前記外囲器の他の部分よりも小さくしてシールドし、このシールド部分と前記絶縁体との隙間を前記絶縁体の沿面絶縁が保たれるところまで狭くすることを特徴とする請求項２に記載の陽極接地型Ｘ線管装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
上記目的は、以下の手段によって達成される。すなわち、熱電子を放出する陰極と、該陰極に対向して配置され、その対向面上に前記熱電子を受けてX線を放射する焦点を形成するターゲット部を含む陽極と、前記陰極および陽極とを真空気密に封入する外囲器とを

具備するX線管と、このX線管を絶縁油とともにX線管容器に収納して前記外囲器と陽極とを接地し、前記陰極にマイナスの高電圧を印加してX線を発生する陽極接地型X線管装置であって、

前記陰極を前記外囲器から絶縁する絶縁体と前記外囲器の内面をほぼ平行に対向させ、真空と外囲器の内面と前記絶縁体とが接合されるトリプルジャンクション近傍の対向間隔を他の部分よりも狭くする。

前記絶縁体に階段状の段差を設けて前記トリプルジャンクション近傍の前記対向間隔を他の部分よりも狭くする。